

時間関係辞 dans

曾我 祐典

0. はじめに

ある事態を P, その生起時点を Tp としよう. Tp が「基準時点からある量の時間だけ後」であることをフランス語で表そうとすると、発話者は次の (01) のように <dans QT> (QT は時間量の表現) を用いることがある.

(01) Ils reviendront *dans trois heures*.

本稿では、<dans QT> の機能を、言い換えると <dans QT> をフランス語話者が用いるのはどのような場合であるかを、発話例の分析⁽¹⁾ とインフォーマントの面接調査⁽²⁾ にもとづいて明らかにしたい.

以下では、さまざまな類似点が認められる <QT après>, <QT plus tard>⁽³⁾ や <dans 定冠詞 QT> と対照しつつ、基準時点と時間の流れの観点から <dans QT> の機能を考察する⁽⁴⁾.

1. 基準時点

1.1. <QT après> の場合の基準時点

次の (02) のような発話で用いる <QT après> は、<dans QT> と意味的共通点をもっている.

(02) Ils sont revenus *trois heures après*.

すなわち、どちらも Tp が「基準時点からある量の時間だけ後」であることを表すときに用いる。QT の形式も、<数詞+名詞> (ex. douze secondes, quarante jours), <不定形容詞+名詞> (ex. quelques mois), <副詞+de 名詞> (ex. peu de minutes, peu de temps) など、ほぼ共通している。

しかし、基準時点 Tr については、発話例を観察すると、<dans QT> の場合と <QT après> の場合では差異があることが分かる。Tr は、<dans QT> の場合は原則として発話時点であるのに対して、<QT après> の場合は発話時点ではない。次の (03) の a, b を比べてみよう。

(03)a Oui, je suis toujours en vacances. Je rentrerai à Paris *dans quinze jours*.

b Oui, je suis toujours en vacances. *Je rentrerai à Paris *quinze jours après*.

<QT après> の場合、Tr は過去の時点であることが多い。つまり、<QT après> を用いるのは、Tr として過去のある時点を踏まえて Tp が「それからある量の時間だけ後」であることを表そうとする場面であることが多い。次の (03c), (04), (05) はその例である。

(03)c Je n'ai pas pu partir en croisière avec eux parce que je devais rentrer à Paris *quinze jours après*.

(04) Tantôt il (= le paysage) était brillant, très vert... avec un ciel magnifique... et puis *deux secondes après* c'était tout gris, sinistre, des murs affreux... (*Rien sur Robert*)

(05) (...) je me suis fait piquer mon vélo l'année dernière. Bon alors, j'ai fait une croix dessus. Puis, *trois jours après*, à l'autre bout de Paris, incroyable, qu'est-ce que je vois ? Mon vélo (...) (*Le dernier métro*)

Tr はまた、未来の時点のこともある。つまり、Tr として未来のある時点を踏まえて Tp が「これからある量の時間だけ後」であることを表そうとするときにも <QT après> を用いる。(06) はその例である。

- (06) *Vendredi prochain? Les étudiants arriveront vers midi. Et comme ils n'auront pas grand-chose à faire, ils repartiront probablement une ou deux heures après.*

<QT après> の après は「より後に」を表す副詞と見なすことができ、QT は「より後に」が「どの程度」であるかを表す要素、すなわち après にかかる語句と考えてよい⁽⁵⁾。

1.2. <dans QT> の場合の基準時点

上の (01), (03a) について見たように、<dans QT> は Tr が発話時点の場合に、つまり Tp が「これからある量の時間だけ後」であることを表す場合にしばしば用いる。このとき <P+dans QT> の P は発話時点より後に生起する事態の表現であり、多くの発話例において動詞時称として現在形・複合過去形、<aller の現在形+Inf>、未来形・前未来形が観察される。一つづつ例を示しておこう。

- (07) *Notre contrat arrive à expiration dans peu de temps. (La Cravache d'Or)*
- (08) *Et puis attends-moi, j'ai fini dans cinq minutes. (Vincent, François, Paul et les autres)*
- (09) *Je vais avoir quatorze ans dans trois mois. (Le dernier métro)*
- (10) *Je t'écirai peut-être une autre lettre dans quelques semaines ou dans quelques mois. (Femme défendue)*
- (11) *Faites comme chez vous. J'aurai fini dans un quart d'heure, vingt minutes. (Avec intention de nuire)*

1.3. 基準時点から事態生起への推移

Tr が発話時点でありうるか否かは, Tp を位置づけるにあたって発話者が Tr から P の生起への推移をどのように捉えるかによるようだ.

1.3.1. <QT après> の場合

Tr が発話時点のときには用いない <QT après> の場合, 発話者は Tr から P への推移をどのように捉えているのだろうか. (05) に即して見ていこう.

- (05) (...) je me suis fait piquer mon vélo l'année dernière. Bon alors, j'ai fait une croix dessus. Puis, *trois jours après*, à l'autre bout de Paris, incroyable, qu'est-ce que je vois ? Mon vélo (...) (*Le dernier métro*)

この発話では, 発話者は次の3つの事態に言及している.

- a. <je-me-faire-piquer mon vélo>
- b. <je-faire-une croix-dessus>
- c. <je-voir-mon vélo>

発話者は過去のある出来事を, 物語を語るように語ろうとしている. a, b から c への事態推移の全体を視野に収めて, つまり P への推移を外側から捉えて, そのうえで語るという姿勢である. そして, a, b の生起時点を Tr として Tp を「それから3日後」と位置づけて <trois jours après> によって表している.

1.3.2. <dans QT> の場合

それでは, Tr が発話時点のときに用いる <dans QT> の場合, 発話者は Tr から P への推移をどのように捉えているのだろうか. (03a) に即して見ていこう.

- (03)a Je suis toujours en vacances. Je rentrerai à Paris *dans quinze jours*.

この発話では、発話者は次の2つの事態に言及している。

a. <je-~~être~~-en vacances>

b. <je-~~rentrer~~-à Paris>

発話者は、a から b への事態の推移を外側から見て語っているのではない。目下、事態 a の真っ只中にいる当事者として、事態 b (=P) を a の延長上に展望している。a の事行主体の立場で、P への推移をいわば内側から捉えているのである。そして、発話時点を Tr として Tp を「これから2週間先」と位置づけて <dans quinze jours> によって表している。

このような事態推移の捉え方は、発話時点を Tr とする hier / aujourd'hui / demain の系列の表現を用いる場合の捉え方と基本的に変わらない。

- (12) J'ai reçu un coup de fil de Nicole hier. Elle m'a demandé de la présenter au directeur demain.

この場合、発話者は <je-recevoir-un coup de fil ...>, <elle-me-demander ...> という事態の事行主体として事態 <je-la-présenter ...> への推移を内側から捉えている。時間の流れの中で未来方向を展望して Tp を捉えていると言ってもよい。事態の推移を外側から見て la veille / ce jour-là / le lendemain の系列の表現を用いる場合とは違っている。

実は、<P+dans QT> の発話例の中には、P が発話時点以前の事態の表現であるものも認められ、動詞時称として半過去形、<aller の半過去形+Inf>, 過去未来形なども見られる。発話例を二つづつ示しておこう。

- (13) Il la regardait agir, docile, attendri et reconnaissant. Son avion pour Madrid s'envolait dans deux heures. Il avait juste le temps de se précipiter à Orly. (*Le troisième bonheur*)
- (14) T'as dit que tu revenais dans cinq minutes et t'es parti très longtemps. (*Lamento*)

- (15) La boutique était déserte. On *allait fermer dans quelques instants*. (*Six contes moraux*)
- (16) (...) la tante de Takaïdô avait dit qu'elle *allait venir le voir dans deux ou trois jours*, que M. Miyagi, de la pharmacie, avait fait une chute de bicyclette, etc. (*Ballade impossible*)
- (17) Il (= Pascal) a appelé une fois pour dire qu'il *reviendrait dans deux jours*. Puis plus de nouvelles, pas d'explications. (*La cité qui fait peur*)
- (18) Mais il (= Pete) a vu que maman attendait et qu'il *pourrait dans quelques instants* laisser aussi bien l'auditoire que ses hôtes. (*Manuella*)

これらの発話の場合も、発話者は事行主体の立場で（すなわち、事行主体としてまたは事行主体であるかのように）事態の推移を内側から捉え、つまり時間の流れの中で未来方向を展望して、Tp を「これからある量の時間だけ先」と位置づけて <dans QT> によって表していることは変わらない。

たとえば、(13) の場合、発話者は、一つ目の事態 <il-la-regarder ...> の事行主体 "il" の立場で内側から事態 <son avion pour Madrid-se-envoler> への推移を捉え、Tp を「これから2時間先」と位置づけている。(15) の場合も、一つ目の事態 <la boutique-être-déserte> の内部にいる人間の立場で事態 <on-fermer> への推移を内側から捉え、Tp を「これからしばらく先」と位置づけている。これら (13), (14) は、自由間接話法の発話と見なすことができる。(14), (16), (17), (18) は複文であり、主節の事態の伝達行為・知覚行為の対象が従節の事態である。このような場合、発話者は主節の事態の枠組内にいる事行主体の立場で P への推移を内側から捉え、Tp を「これからある量の時間だけ先」と位置づけている。

以上から、次のようなことが言える。

- (19) 事行主体の立場で P への推移を内側から捉え、Tp を「これからあ

る量の時間だけ先」と位置づけて表そうとすると、発話者は <dans QT> を用いる。

発話者が P への推移を内側から捉えるということは、Tr から Tp に至る時間の流れの中に身を置いて事態の推移を捉えるということにほかならない。そして、この「時間の流れの中」という要因は、とくに <dans 定冠詞 QT> との使い分けを考える際に重要な意味をもつようである。次にそのことを見ていこう。

2. 時間の流れ

2.1. <dans 定冠詞 QT> : 期間内の一時点

次の (20) のような発話で用いる <dans 定冠詞 QT> は、<dans QT> と形態的によく似ているだけでなく、QT として観察される <数詞+名詞> (huit jours) や <不定形容詞+名詞> (quelques mois) などが <dans QT> の場合にも見られるという共通点もある。

(20) Ils doivent revenir *dans les trois heures*.

しかし、機能の面では両者はかなり異なっている。

<P+dans 定冠詞 QT> の発話例をいくつか見ておこう⁽⁶⁾。

(21) Cette fois, je suis... coincé !... Il faut que je trouve treize millions *dans les trois jours*... Et je les ai pas. (*Vincent, François, Paul et les autres*)

(22) Dimanche soir, la télévision israélienne annonçait qu'à la suite des derniers incidents (...) le gouvernement avait décidé de hâter ses préparatifs de retrait et de quitter le Liban *dans les dix jours*. (LM2000.05)

- (23) Le géant des télécoms, NTT, a par ailleurs mis au point un service permettant de localiser une personne portant sur elle un petit émetteur. On appelle un numéro et, *dans les trente secondes*, arrive par fax une carte avec la localisation de la personne. (LM 2000.05)
- (24) D'abord, en cas d'OPA, (...) L'entreprise attaquée devra informer le comité d'entreprise *dans les dix jours*. (LM 2000.02)

これらの発話例の場合、発話者はある「期間」を <定冠詞 QT> によって、Tp がその期間の「内部」であることを dans によってそれぞれ表していると考えられる。期間の開始時点は、(21) のように発話時点のこともあるが、そうでないことも多い。いずれにせよ、開始時点は文脈で示される。たとえば、(21) では事態 <je-être-coincé>, <il-faut-que ...> の生起時点、(22) では事態 <la télévision israélienne-annoncer ...> または <le gouvernement-décider ...> の生起時点である。(23), (24) では、それぞれ仮定的な事態 <on-appeler-un numéro>, <l'entreprise-(être)-attaquée> の生起時点である。

開始時点がどの時点であれ、発話者はある期間を設定して Tp が「その期間内」であることを <dans 定冠詞 QT> で表すのである。<定冠詞 QT> としては、<les dix jours> のような形式のほかに、名詞に次のような修飾語がついたものが目立つ。

- (25) les dix jours *suivants / à venir / qui viennent*

また、QT を (26) のようにさまざまな形容詞節で修飾することもある。

- (26) Ces "surnuméraires" issus de piscicultures sont, généralement, repris par des prédateurs ou des pêcheurs dans les quelques jours *qui suivent leur mise en liberté*. (LM 1998.03)

これまで見てきた <P+ dans 定冠詞 QT> の場合の期間の設定の仕方と Tp の位置づけ方は、次のような場合と本質的に同じである⁽⁷⁾。

- (27) Au-delà du jazz, il (= Duke Ellington) est aussi l'un des grands compositeurs du siècle, dont l'art est unique, qu'il soit concentré *dans les quelques minutes de Black and Tan Fantasy (1927) (...)* (LM1997.11)

2.2. <dans QT> : 未来方向の一時点

<dans QT> について「期間」という表現を用いるのは、事態の推移を外側から見ていくかのように響くので避けるべきだろう。実際、<dans QT> の使用の鍵は、1.3.2. の最後に述べたように、発話者が事行主体の立場で推移を内側から捉えていること、つまり、Tr から Tp に至る時間の流れの中に身を置いていることである。次の (28) を見てみよう。

- (28) On se connaît à peine et déjà il faut être séparés. C'est dur, tu vois.

— Oui, mais *dans trois jours*, je suis de retour...

発話者は、時間の流れの中で未来方向に目を向けて Tp の位置づけを行う。かりに入り口からの距離が内壁に表示されているトンネルがあるととして、そういうトンネル内を車で走行中に前方に目を向けて内壁の距離表示を読み取るようなものである。(28) の場合、前方に目を向けるとまず "un jour" の表示が、もう少し先に "deux jours" の表示が、さらに遠くに "trois jours" の表示が目に入る。前方に見えているその位置を、事態 <je-être-de retour> の生起時点 Tp として <dans trois jours> で表しているわけである⁽⁸⁾。

事行主体が自分自身でない場合も、発話者は事行主体の視点を採用して Tr から P への推移を内側から捉え、Tp を「これからある量の時間だけ先」と位置づけて <dans QT> によって表す。このようなメカニズムを、上に示した <dans QT> の発話例 (01, 03a, 07-11, 13-18) のすべてについて認めることができる。

要するに、時間の流れの中を未来方向に移動中の事行主体の立場で、QT と

いう時間量だけ離れた時点を前方に見てとって T_p がその時点であると伝えるときに < dans QT > を用いるのである。dans の使用は、少なくとも QT だけ奥行きのあるトンネルの「内部」において P の生起を捉えるという操作であることで説明される。また、< (定冠詞なしの) QT > の使用は、あらかじめ期間を設定しておいて (< 定冠詞 QT >) その内部に事態生起を位置づけるのではなく、P を思い描くのにもなって T_r から T_p までの時間量を認識するという操作であることで説明される。

ところで、別れ際に「また明日」「近いうちに」のように言おうとするときは、A demain ! や A bientôt ! のような表現をよく用いる。このような場面でも、発話者は、時間の流れの中を未来方向に移動中の人間として、前方に demain や bientôt で表す時点を思い描いて、再会という事態の生起時点 T_p がその時点であることを表すのである。この場面で、「また3日先に」「また3週間先に」のように言おうとするとき、次のような表現を用いることがあるのはそのためである。

(29) A *dans trois jours* ! / A *dans trois semaines* !

また、予想・予定について話す場面においても < dans QT > を関係辞 pour と組み合わせて用いることがある。発話者は、時間の流れの中を未来方向に移動中の人間の立場で、前方に QT で表す時間量だけ離れた時点を思い描いて、予想・予定する事態の T_p がその時点であると表すときに < pour dans QT > を用いるのである。

(30) En fait, dans la plus optimiste des projections, les premiers réseaux routiers automatisés sont *pour dans trente ans*. (LM 2000.03)

(31) On a quatre enfants, vous savez. (...) Et puis... On attend le cinquième *pour dans trois mois*. (Marius et Jeannette)

3. おわりに

実は空間的移動の場合にも *dans* を用いることがあるのは, VANDELOISE 1999 も指摘するとおりである(p. 57). たとえば, 川に沿ってドライブしている場面で, 前方のなにかについて「ここからある距離だけ先」と位置づける場合に次のような表現を用いることがある.

(32) Je ne sais pas comment on peut passer de l'autre côté.

— Rassure-toi. On va avoir un pont *dans trois kilomètres*.

時間的な領域において <*dans QT*> を用いるのは, (19) に述べたとおり, 発話者が事行主体の立場で P への推移を内側から捉えて *Tp* を「これから *QT* だけ先」と位置づけて表そうとするときである. 発話者は, 時間の流れの中を未来方向に進みながら前方に目を向けている. ちょうどトンネル内を走行中に前方に目を向け, 現在地からある深さだけ奥の方に目をやって *Tp* を「ここから *QT* だけ先」と位置づけるようなものである. 入り口のところから見れば, *Tp* は, *QT* だけトンネルの「内部」に入り込んだところというわけである.

未来方向への前望的な視線ではなく, 基準時点から過去方向への後顧的な視線の場合, すなわち「ある量の時間だけ前」の場合には, <*dans QT*> ではなく, たいていは <*il y a QT*> または <*depuis QT*> を用いる. これについては, 稿を改めて論じることにはしたい.

注

1. 西村牧夫氏(西南学院大学)に提供していただいたデータが非常に有益であった.
2. インフォーマントはフランス人4人である.
3. <*QT après*> と <*QT plus tard*> のあいだに認めうる差異は本稿では問題にしない. 以下では, 両者を <*QT après*> で代表させることにする.

4. 出典を示していない発話例は、インフォーマントの協力を得てわれわれが作ったもの。
5. これに対して、発話者が Tr の事態を a, b のような発話の N や que N Sub/Ind によって表す場合の *après* は前置詞と見なすことができる：a. *Ils sont rentrés à Paris trois semaines après la Libération.* b. *Pierre rencontre Nicole quelques jours après que sa femme l'ait quitté.*
6. 基準時点以前の期間を表すために <dans 定冠詞 QT> (しばしば QT は修飾語をとともなう) を用いる次のような発話もあるが、本稿では扱わない：A cette date, le chômeur indemnisé par l'Unedic commencera un nouveau parcours. Lors de son inscription, s'il a travaillé quatre mois *dans les dix huit derniers mois* – au lieu de douze actuellement –, il devra signer le PARE. (LM2000.12)
7. さらにまた、事態の生起がある物の内部であることを表すために <dans 定冠詞 名詞> を用いる場合 (ex. *Elle attend son ami dans la voiture.*) ととも本質的な差はないと言える。
8. 「これからまだ3日ある」ということを *devant* を用いて *Nous avons encore trois jours devant nous.* のように表す場合も同じような感覚を発動していると考えられる。

主要参考文献

- VANDELOISE, Claude (1999) : "Quand *dans* quitte l'espace pour le temps", *Revue de Sémantique et pragmatique* 6, pp. 45-162.
- 曾我祐典 (1992) : 『フランス語における状況の表現法』, 白水社.

(文学部教授)